

## 耐空性勧告

パラグライダー用ハーネス、ハンググライダー用ハーネス、パラグライダー用緊急パラシュート、ハンググライダー用緊急パラシュート

2人のパラグライダーパイロットが、調査のため彼らのリザーブをDHVに送ってきた。リパックの際に、インナーコンテナの外側がべたつく物質の薄い膜で覆われていることに気がついた。一つのケースでは、リザーブが非常に強固に張り付いていたため、アウターコンテナとインナーコンテナを物理的にはがした後でなければ開傘が出来なかった。恐らく、飛行中の緊急開傘は不可能であったと考えられる。どのリザーブも製造者の推奨する定期的なリパックをしていなかった（一つは10カ月、もう一つは24カ月）。

### ビデオへのリンク

インナーコンテナに使用された素材の製造者は、この現象の原因は化学変化によるものと思われると説明している：アウターコンテナがポリエステルでコーティングした生地で出来ていると、柔軟剤の移行が起これ、その結果、部分的な分解と多少ともべたつく物質が生じる。

調査した二つのケースは、**Finsterwalder/Charly** 社のリザーブに関するものである。多くの種類のリザーブおよびハーネスがあり、そのインナーとアウターコンテナの組み合わせも多くなるので他の製造者のリザーブもまた影響を受ける可能性がある。

そこでDHVは、以下の耐空性指令を発行する：

ハングあるいはパラグライダー用緊急パラシュートの定期リパックのときに、インナーおよびアウターコンテナに、べたつく物質があるかチェックする。少量でもそのような物質が確認されたときは、インナーおよびアウターコンテナの製造者に連絡し、交換されたコンテナを使用すること。

インナーおよびアウターコンテナがべたつく劣化の起きたリザーブは、耐空性の要件を満たしていないので、対地高度50m以上のフライトに使用してはならない。

Gmund, 2009年8月6日

Karl Slezak

DHV Safety Manager